

アルミ情報

A L U M I N U M
I N F O R M A T I O N
M A G A Z I N E

株式会社TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY

Super GT™のレース車両を足元から支える鍛造ホイールは、数十キロものアルミビレットを鍛造して造られます。

弊社は、レース用ホイールで培った技術と経験を活かし、現代のマーケットにおける細分化されたニーズに応える製品をプロデュースしていきます。



TWS Motorsport



RS317 T66-F T66-GT T66-F PRO II

2022●SUMMER

03

2022年度
定期総会開催

05

第44回
優良従業員表彰

06

2022年4月例会
富山県成長戦略と
アルミ産業振興への取り組みについて
富山県知事 新田 八朗氏

10

特別寄稿
知財の保護と活用による
富山県の経済活性化を目指して
INPIT富山県知財総合支援窓口
窓口支援担当者 林原 幹雄氏

12

「砺波市美術館について」
砺波市美術館 主査学芸員 杉本 積氏

14

会員企業紹介 | 30
株式会社大和産商

16

NEWS & TOPICS

18

各委員会の動き・92
アルミの統計

19

私のひととき 第90回
株式会社 TAN-EI-SYA 執行役員 小杉 尚之氏

VOLUME
396

2022年5月24日(火) 定期総会・理事会を開催、2021年度事業と計算書類の審議、承認をいただきました。また、任期満了に伴う役員改選で、新たな理事として、山崎申之氏(三協立山㈱三協アルミ社 執行役員)と熊倉 克一氏(ビニフレーム工業㈱ 代表取締役社長)の2名が就任されました。理事会では会長に荒井 毅氏(北陸アルミニウム㈱ 代表取締役社長)が再任、前副会長の橋本 浩一氏(三協立山㈱ 常務執行役員)が退任され、新任の副会長に山崎 申之氏(三協立山㈱三協アルミ社 執行役員)、西川 一浩氏(アイシン軽金属㈱ 代表取締役社長)と泉谷 陽悦氏(㈱北陸LIXIL製作所 生産本部長)が副会長として再任されました。

荒井会長挨拶要約



本日は、一般社団法人富山県アルミ産業協会の総会にご出席頂き有難うございます。また会員の皆様方には、日頃より当協会の事業活動にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

当協会では、以前より継続して、各会員様企業の需要拡大と更なる繁栄を目指し、県や大学、関連する団体のいわゆる『産・学・官』とのコミュニケーションを密にし、各施策に取り組んでいます。

我々アルミ業界においては、世界的な半導体の不足により、自動車関連の一部の工場では、生産計画の下方修正や操業を一時停止するなどの措置にまで至りました。また、業界全体では、急速な円安や原油とアルミ地金等の高騰などが製造業の経営に大きく影響を及ぼしております。

当協会に於いては、IoTやAIおよびDXなどの技術を学習しながら、新たな課題として「カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」に向け、とやまアルミコンソーシアムと協働し、二酸化炭素の排出量およびアルミリサイクルの高度化に向けアルミスクラップの排出量を調査するなど、新たな取組みをスタートさせました。人財育成では、軽金属教育夏季講座や能力開発セミナーなど、各種研修会を継続して参りました。

未だ収束の見えないコロナ禍の中、環境変化に応じて会員企業の交流や情報交換、生産性向上支援訓練などの人材育成に加え、DXへの対応に向けた学習の機会創出やタイムリーな情報展開を図り、『ものづくり改革』の拡大に取り組んでまいります。

また、会員企業の新たな事業分野進出およびカーボンニュートラルなど、新たな課題に対し、産学官が連携する「とやまアルミコンソーシアム」と連携し、課題達成に向け取り組みます。

最後になりますが、富山県アルミ産業協会は、地域社会に貢献できる協会として確りと前を向き、事業を推進して参ります。どうか会員の皆様方の更なるご理解とご協力をお願いし、挨拶にかえさせていただきます。



定期総会開催

2022年度事業計画(自 2022年4月1日～至 2023年3月31日)

❖ 計画の基本方針

富山県アルミ産業の持続的発展を目指し、脱炭素化・SDGsの取り組みの推進により、アルミの環境負荷低減を図り循環型社会の形成に努め、会員企業の新規事業創出や技術開発による新たな付加価値を創出すべく、産学官が連携する新事業の展開を図る。

国の方針「働き方改革」に合わせ、生産性向上を目的とする人材育成支援や会員企業の従業員交流活動を推進すると共に、行政と連携した事業と情報提供の発信を行う。

❖ 重点項目

1 交流事業の推進と情報発信

- 協会事業活動を通じて、会員・従業員相互の交流や情報交換の機会創出を推進
- 会員企業の新たな事業創出を狙い、富山県産業技術

- 研究開発センター、富山大学、富山県立大学など公的研究機関やものづくり関連団体との交流事業の推進
- 富山県新世紀産業機構など行政産業振興支援施策情報の発信

2 技能・技術の向上、能力開発事業の推進

- 県のアルミ産業成長力強化戦略推進事業に参画し、アルミニウム合金におけるリサイクルの高度化や省エネルギー等の取り組みによる、脱炭素化に向けた環境負荷低減に貢献すると共に、会員企業の新たな事業創出に結びつく技術開発の推進

- インフラ構造材の新規事業に向け、他団体との交流会によるアルミの新たな用途開発・技術開発の推進
- 生産性向上と働き方改革に結びつくデジタル技術活用事業の推進・展開
- アルミの新たな事業展開を模索する脱炭素化・SDGsに係る「アルミ用途開発講演会」の開催

3 アルミ産業振興事業の推進

- HPを活用した富山県のアルミ産業情報の発信
- 県と連携したインターンシップ事業などを活用した人材確保の推進

- 官公庁技術職員を対象とした地元会員企業の商材・技術紹介研修会の開催

❖ 各委員会の事業計画

1 総務広報委員会

- 定例会の開催(年5回:4月、6月、8月、10月、2月)
- 「あるみ情報」メール便(毎月)の発信と「アルミ情報」の定期発行(年3回)

- 親睦事業の開催(ゴルフコンペ、暑気払い親睦会、年末懇親会)
- 市民功労、県表彰、その他会員顕彰の調査対応
- 会員企業従業員向け交流会

2 経営労務委員会

- 優良従業員表彰式の企画・運営(第44回)
- 企業訪問研修(工場見学及び経営者との懇談)
- 能力開発セミナーの企画、開催
- 生産性向上支援訓練の開催

- 富山県産業技術研究開発センターを活用した会員企業技術者の育成支援
- 生産性向上、働き方改革に向けたデジタル技術活用事業の推進
- 呉西圏域ビジョンへの参画推進

3 技能技術委員会

- とやま接合技術推進協会との交流会の開催
- 軽金属教育夏季講座の開催(第52回)
- アルミ用途開発講演会開催(第12回)
- 先進地企業視察の開催

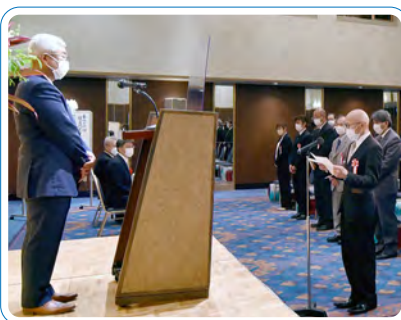
- 商材研究会の開催(官公庁案件への商品・技術情報発信)
- 産業支援施策説明会の開催
- 軽金属接合研究会への参画

第44回 優良従業員表彰式

5月24日(火) ホテルニューオータニ高岡で定期総会に引き続き、第44回優良従業員表彰式が行われ、各社から推薦の45名の方が受賞されました。表彰式では、荒井 毅会長の挨拶の後、表彰状ならびに記念品が授与され、受賞者を代表して平野 好男様(協和紙工業株式会社)が謝辞を述べられました。来賓として、富山県知事(代理: 商工労働部部長 中谷 仁氏)、高岡市長(代理: 副市長 河村 幹治氏)をお招きし、ご祝辞を賜りました。

結びに本表彰を主管する経営労務委員会を代表し、花木委員長の挨拶で閉会しました。

受賞されました皆様、本当におめでとうございます。



第44回優良従業員表彰式受賞者

氏 名	会 社 名	勤続年数	氏 名	会 社 名	勤続年数
平野 好男	協和紙工業(株)	42年	杉山 康二	サンエツ運輸(株)	25年
藤沢 清美	ST物流サービス(株)	41年	堀江 虎哲	丸文通商(株)富山支店	25年
大代 剛史	アイシン軽金属(株)	39年	小原 博和	協立アルミ(株)	24年
嶋田 成人	三協テック(株)富山	37年	橋田 将治	立山エクストーン(株)	24年
横井 重男	三芝硝材(株)	37年	岩坪 辰也	三協ワシメタル(株)	22年
安川 康裕	(株)ヤマシタ	36年	有沢 博	(株)タケシタ	21年
西川 政昭	ヤマダアルミ建材(株)	35年	澤井 博之	(株)カシイ	19年
名場 泰	三精工業(株)	35年	浅島 奨	(株)エスケーシー	18年
江 成美	(株)広瀬アルミ	35年	中野 浩一	(株)三栄	18年
坂井 俊成	三協立山(株)三協マテリアル社	35年	西出 正博	(株)丸協	17年
福田 由衣子	協同アルミ(株)	32年	中橋 喜興次	浦島建材(株)	17年
林 恵子	(株)三和製作所	32年	横田 忠和	戸出化成(株)	17年
山崎 孝子	北星ゴム工業(株)	32年	吉田 文忠	(株)TAN-EI-SYA	17年
坂本 友宏	(株)広上製作所	31年	森川 和彦	三協立山(株)タテヤマアドバンス社	16年
上野 充	三協立山(株)三協アルミ社	31年	川岸 光浩	(株)宮木製作所	16年
脇山 宗久	(株)北陸LIXIL製作所	31年	川田 貴史	(株)高岡ケージ工業	16年
六反 実	サンクリエイト(株)	30年	小嶋 宏和	テクノメタル(株)	16年
能登 俊之	宮越工芸(株)	29年	土倉 崇	大栄建材(株)	15年
川島 伸介	STメタルズ(株)	28年	沖崎 佐知子	北陸アルミニウム(株)	15年
川島 美和子	(株)三輝	28年	柿谷 大樹	松栄金属(株)	13年
栗田 匡昭	(株)ナガエ	27年	吉田 佑介	(株)荒木商会	13年
中井 淳	三協化成(株)	26年	長谷川 亮	ゼオンノース(株)	12年
神嶋 良次	富源商事(株)	25年			

(勤続年数順・敬称略)

富山県成長戦略と アルミ産業振興への取り組みについて

富山県知事 **新田 八朗** 氏



photo by とやま観光推進機構×(C)イナガキヤスト

01

ウェルビーイング中心の県成長戦略

私が知事に就任して1年5カ月ほどが経ちました。民間企業の社長をしていた頃は、お客さま目線の徹底、スピード重視の対応、現場主義を社員に徹底していましたが、公務員もこうした民間企業では当たり前のことを取り入れるのは大切だと常々言っています。

私が目指しているのは、「県民が主役」の富山県です。そのために成長戦略を1年かけて議論してきました。就任後、富山県成長戦略会議という委員11人の組織を立ち上げ、自由闊達に議論を行い、ライブ配信もしながら、県民からも意見を頂く形で進めてきました。

どのような県を目指すのか

「県民が主役」の富山県を！

＜私が目指す新しい富山県の姿＞

「若者からお年寄りまで、希望に満ちた富山県」

「ワクワクすることがたくさんある富山県」

「チャンスがあり夢を叶えられる富山県」

富山県であれば、安心して働ける、生活ができる、子育てもできる、挑戦したいことに挑戦することができる。
そんなワクワクするような気持ちを持てる富山県に！

経済成長は大切です、GDPは今でも大切な指標の一つなのですが、それだけで幸せになったかという必ずしもそうとはいえません。そうした議論の中で出てきた新たな考え方がウェルビーイングです。ウェルビーイングは福祉の世界では50年以上前から議論されてきた考え方であり、最近では自民党や内閣府でも議論され、世界的にも脚光を浴びています。これを富山県成長戦略の中心に据えたいと考えました。

ウェルビーイングを向上させ、人材を磨き、さらには県外から人を呼び込むことで人材の育成・集積を図り、富山に新しい産業や価値を創出していきたいと考えています。ここで大切なのは、人材の出入りの活性化です。富山

に人材を閉じ込めておくのではなく、県外で知見を広めることは大切であり、最終的には入ってくる人が多くなるような富山県にしたいと考えています。つまり、ウェルビーイングの向上によって経済成長も実現するという好循環を目指したいと思っています。

県成長戦略では、具体的に六つの柱を立てました。①真の幸せ（ウェルビーイング）戦略、②まちづくり戦略、③ブランディング戦略、④新産業戦略、⑤スタートアップ支援戦略、⑥県庁オープン化戦略です。

岸田文雄首相は「新しい資本主義」を提唱されています。私は、ウェルビーイングの向上から経済成長の好循環につなげていくことが「新しい資本主義」につながっていると思っています。地方だからこそ豊かな自然や食、資源があり、顔が見える関係から共助や官民連携が進めやすく、ウェルビーイングを向上させる基盤が充実しています。富山県成長戦略は、まさに地方における「新しい資本主義」を受け止める戦略だと自負しています。

ウェルビーイングの向上に向けて「富山県成長戦略アクションプラン」を策定しました。今年度は働き方改革や女性活躍、個性的なまちづくり、官民連携による社会課題解決、人材交流、スタートアップ施策促進など154の事業を実行していきます。

02

県ならではのウェルビーイング政策

社会的つながりによるウェルビーイングの向上を図るために、関係人口の増加を目指して「幸せ人口1000万〜ウェルビーイング先進地域、富山〜」という成長戦略のビジョンを定めました。経済成長重視の時代は、まずは東京が成長して地方がついていく形でしたが、今はそうしたモデルが通用しなくなっています。富山県が成長戦略を進めていくことで、ウェルビーイング先進地域として全国の手本になることも可能だと思っています。

特に、若い女性のウェルビーイング向上を重視しています。

それは、若い女性の県外流出が止まらないからです。男性は転入が超過した年もあるのですが、女性は一貫して転出超過となっています。働き手や顧客の減少だけでなく、地域の魅力がなくなり、少子化にもつながるという悪循環となっています。

そうした状況を食い止めるためにさまざまな施策を考えていますが、その一つとして、自治体で初めてベビーファースト運動に参画し、「子育て環境日本一の富山県を実現します!」と宣言しました。この運動は県内の民間企業でも参画が増えています。また、【富山県版えるぼし認定制度】を策定しました。

●富山県版えるぼし認定制度とは…

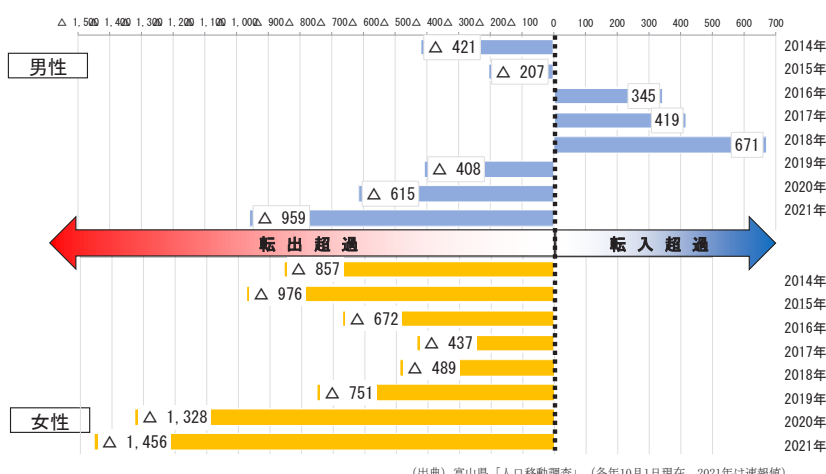
「とやま女性活躍企業」認定制度のこと。企業の成長とウェルビーイング(真の幸せ)の実現に向けて、女性が活躍する県内企業等を県が認定し、広く公表することにより、女性が活躍できる職場環境の整備を促進することを目的とした制度。

その他に、とやま子育てイメージアップ事業にも取り組んでいます。従来も子育て支援施策は行っていますが、そうしたサービスを活用するのは気が引けるという雰囲気があってあまり活用されていません。そこで、もっと利用しやすい機運を醸成し、子育てに関わる人全てのウェルビーイング向上を図りたいと考えています。

さらには、家庭における料理頻度の男女格差が大きいことが、女性のウェルビーイングを損ない社会参画を進みづらくしているのを、男性が料理に取り組む機運を醸成するためのキャンペーンも実施したいと考えています。来年は、富山県が食育推進全国大会のホストを務める予定ですので、そこでも食に関する教育を通じてウェルビーイング向上につなげることを考えていきたいと思っています。

先般、女性活躍推進戦略を策定し、2026年に男性の育児休業取得率を80%にするというKPIを設定しました。現在は8.8%ですので約9倍です。また、女性の管理職比

若い女性の県外流出が課題 富山県15歳～34歳の社会移動の状況(日本人+外国人)



企業が女性活躍を進めるメリット

少子高齢化や価値観の多様化が進む中、企業においては、これまでの常識にとらわれない変革が求められ、**より柔軟な発想による経営**が求められています。多様な市場ニーズに対応し、変化に対する適応力やリスクへの耐性を高めるには、**多様な人材を活かすこと＝女性活躍の推進が必須**です。



新商品・サービス開発

新たな着眼点や見落としがちなニーズから、新商品やサービスの開発につながる可能性があります。

意思決定の場が男性ばかりの組織では、多様なニーズをくみ取り損ねるリスク大。



業務の効率化・生産性向上

女性活躍に必要な環境整備をし、組織全体で時間の使い方を考えることによって、男性を含めた従業員の長時間労働からの脱却、残業代削減につながります。



優秀な人材確保・定着

女性が働きやすい＝男性も働きやすい

顧客満足度に加えて従業員満足度の向上、女性従業員の活躍がSNSの発信や口コミなどで広がり、優秀な人材を惹きつけます。

企業価値の向上 さらなる成長へ

新商品・サービスの開発、業務の効率化・生産性向上、優秀な人材確保・定着が進むことで、企業価値の向上とさらなる成長へ好循環を生み出します。

率を2025年に30%とすることも目指しています。どちらも簡単に達成できそうな目標ではありませんが、将来からバックキャストिंगすると、これぐらいは達成しなければならないという思いで設定しました。

企業では、より柔軟な発想による経営やリスクへの耐性を高めることが求められており、そのためには女性活躍を進めることが必須となります。他にも女性活躍を進めることにより、新商品・サービスの開発につながったり、業務の効率化・生産性を向上させたり、優秀な人材確保・定着を図ることができたりなど、さまざまなメリットがあると思います。

県民や事業者の皆さまにもウェルビーイング向上につながる取組みを促していきます。そのために県民意識調査を行い、ウェルビーイングを測る指標を設定しようと考えています。また、企業や団体のウェルビーイングの取組みを後押しして横展開するため、企業・団体の顕彰制度も創設したいと思っています。ウェルビーイングの向上に向けた施策の在り方についても追求していきます。

03

ウェルビーイング施策を効果的に進めるために

県だけでできることには限りがあるので、市町村の取組みも県が後押しし、ワンチームとなって取り組んでいきます。「ワンチームとやま連携推進本部会議」という、私と15市町村長によるミーティングをこれまで11回開催してきましたが、ここでもウェルビーイング推進をテーマにしたいと考えています。

官民連携や共助による多様な地域課題の解決も進めていきます。例えば朝日町では、過疎化に伴うモビリティ確保の問題に対処するため、民間企業の力を借りて「ノッカルあさひまち」というモビリティサービスを展開しており、こうしたウェルビーイング向上の取組みを、富山県で開催される全国過疎問題シンポジウムで全国に発信したいと思っています。

住民目線の情報発信の強化も必要です。例えば、子どもの支援策はいろいろ行われていますが、住民に届いていないことがよくあります。そこで、デジタル窓口やAIチャットボットの活用を進め、情報が伝わるように改善していきます。

また、富山県はサーロイン（3：6：1）の法則を重視しています。通常はコンテンツ開発にコストの8～9割をかけますが、その部分は3割とし、プロモーションに6割、効果検証に残り1割をかけます。この法則を実行することで効率的に施策を伝えていきます。そのためにも、実行段階はもちろん計画段階から住民に参加してもらうように進めたいと考えています。

今後の展開としては、日本で来年開催されるG7サミットの教育関係閣僚会合を富山に誘致し、全世界にウェルビーイングの重要性を発信できないかと考えています。2025年の大阪・関西万博と連携した取組みも検討しており、「ウェルビーイング先進地域・富山」を目指します。

04

アルミ産業振興への取組み

県成長戦略の柱の一つである新産業戦略には七つの項目があり、その一つに「アルミ・くすり、リサイクル等の産業競争力強化」があります。アルミ産業成長力強化の予算は、2021年度は4400万円でしたが、2022年度は6割増の約7300万円を計上しました。産学官で構成している「とやまアルミコンソーシアム」を通じ、実用的なアルミリサイクルの研究開発支援を拡充し、カーボンニュートラルの社会的要請に対応可能な競争力強化に取り組めます。

富山県成長戦略の柱の1つ「新産業戦略」

- ① 自立した経済圏確立
- ② 広域交通インフラの整備、経済交流
- ③ 県内企業のDX・高付加価値化支援
- ④ カーボンニュートラルを踏まえた産学官連携の強化
- ⑤ **アルミ・くすり、リサイクル等の産業競争力強化**
- ⑥ 実証実験の誘致・実施
- ⑦ 人材育成、公教育の強化

これから電気自動車（EV）の普及拡大が予想される中、アルミ素材は軽量なので脚光を浴びることは間違いありません。しかし、精錬には多くのエネルギーが必要となります。ただ、リサイクルを行えばエネルギー消費量を97%も減らすことができます。ですから、アルミリサイクルはこれから重要になるでしょう。

富山の循環型アルミ産業網、いわゆるバリューチェーンを強化するため、リサイクルの研究開発を行ってきました。2022年度は、バリューチェーンの各製造工程におけるCO₂排出量などを見える化するシステムの開発を目指します。さらにグリーン化に関わる新たな研究開発支援にも取り組めます。

2021年度からは、アルミ産業内に存在する規制緩和や業界慣習の見直しに向けた調査や取組みを支援する「アルミサンドボックス事業」を実施し、50万円を上限に補助しています。2022年度も継続し、さらに有望と思われるテーマは上限を100万円にまで引き上げています。

人材育成事業では、県内外の大学生にアルミ産業の体験実習も実施しています。



とやまアルミコンソーシアムの取組み

(2) アルミのリサイクル（グリーン化）に向けた取組み

成長戦略会議で取りまとめられた、**循環型経済の確立**や**カーボンニュートラル**に係る取組みやリサイクル（グリーン化）に関する研究開発を実施

①アルミのリサイクル（グリーン化）に関する研究開発

ア. 循環型アルミ産業網の構築に向けた、**リサイクル（グリーン化）技術に係る産学官の研究開発**（500万円×3件、R3～R5の3年間実施）

I リサイクルアルミ材料の溶解工程における環境負荷評価と熱マネジメントによる省エネ2次溶解システムの構築（省エネルギー技術の開発）
国沢アルミ合金㈱、富山県立大学

<目標> アルミ溶融炉のエネルギー消費量の15%削減

II 鋳造用アルミ合金材の連続溶解プロセスにおける素材の溶融歩留まり向上や廃棄生成物の低減のための溶解技術の開発（省資源化技術の開発）
北陸アルミニウム㈱、富山県立大学

<目標> ・再生アルミ材の比率の向上
・溶解時の副生成物（廃棄物）の低減

III アルミ鋳造製の大型建築部材の軽量化及び部材の水平リサイクルのための大出力レーザーを用いた溶接組立加工技術及び解体加工技術の開発（リサイクル技術の開発）
㈱三和製作所、県産業技術研究開発センター

<目標> 薄い板厚の再生アルミ鋳造材を対象としたレーザー・アークハイブリッド溶接切断・組立技術の実現

イ. **新たに3件のリサイクル（グリーン化）技術に係る産学官連携の研究開発**（500万円×3件、R4～R6の3年間実施）

ウ. 研究開発に係る**ハード補助（設備導入支援）**（600万円×2件）

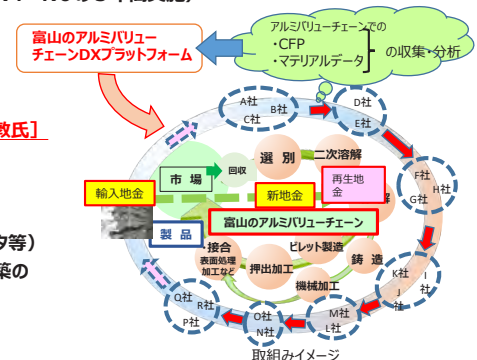
②循環型アルミ産業網強化に向けた研究会【133.6万円】

R3に「**アルミバリューチェーングリーン化研究会**」【座長：（一社）日本LCA推進機構 理事長 稲葉 敦氏】を発足し、県内アルミ産業界でCO2削減に向けた取組みを実施します

③アルミバリューチェーンDX化に関する研究開発【200万円】

富山のアルミ産業網（アルミバリューチェーン）の各工程からデジタルデータ（CFP※、マテリアルデータ等）を収集し、DX・AI技術を活用したクラウド上の「**富山のアルミバリューチェーンDXプラットフォーム**」構築の研究開発を実施します

※CFP：カーボンフットプリント（炭素の足跡）のことで、商品やサービスの原材料の調達から生産、流通を経て最後に廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出されるCO2（温室効果ガス）を表したもの



05

おわりに

さまざまな施策や成長戦略等を通じて、「県民が主役」の新しい富山県を産業界の皆さまとも「ワンチーム」となって創り上げていきたいと思っています。アルミ産業協会の皆さまには、従業員のウェルビーイングを上げ、好循環をつくっていただきたいですし、高い技術力でものづくり産業をけん引している立場からご協力いただければ幸いです。

「県民が主役」
の新しい富山県の未来を
「ワンチーム」
で創り上げていきましょう！

新田 八朗 (にった はちろう) 富山県富山市出身

1958年 8月 富山市生まれ
1981年 3月 一橋大学経済学部卒業
1981年 4月 株式会社第一勧業銀行 入社
1983年 1月 株式会社第一勧業銀行 退社
1983年 2月 日本海ガス株式会社 入社
2000年 1月 日本海ガス株式会社 代表取締役社長に就任
2018年 1月 日本海ガス絆ホールディングス株式会社 代表取締役社長に就任
2020年 1月 日本海ガス株式会社 代表取締役社長を退任
2020年 3月 日本海ガス絆ホールディングス株式会社 代表取締役社長を退任
2020年11月 富山県知事に就任

知財の保護と活用による富山県の経済活性化を目指して

INPIT富山県知財総合支援窓口 窓口支援担当者 林原 幹雄氏

MIKIO HAYASHIHARA



1 はじめに

(一社) 富山県発明協会とINPIT富山県知財総合支援窓口

一般社団法人富山県発明協会は、昭和15年9月28日に帝国発明協会富山県支部として創立され、社団法人発明協会富山県支部を経た後、平成22年に一般社団法人富山県発明協会が設立され、令和2年をもって80周年を迎えました。

この間、発明の奨励、青少年の創造性開発育成及び知的財産権制度の普及啓発等を行うことにより、科学技術の振興を図り、富山県の発展に寄与することを目的として、富山県発明とくふう展等の発明の奨励に関する表彰事業、少年少女発明クラブの活動を支援する事業、知財総合支援窓口運営業務等の知的財産制度の活用を支援する事業等を行ってまいりました。

この知財総合支援窓口は、平成23年に、様々な専門家・支援機関等と協働でワンストップサービスを提供することにより地域の中小企業等の知財活用・新規事業化を支援することを目的として、特許庁により全国47都道府県に設置され、平成26年に事業の主体が特許庁から(独)工業所有権情報・研修館(略称:INPIT)に移管されたため、窓口の名称は「INPIT富山県知財総合支援窓口」となっています。

2 企業が持つ「無形」の強み

「知的資産」「知的財産」「知的財産権」(図1)

企業が事業を継続・発展させていく上で、他社に対して自社の「強み」を維持していくかは大切なポイントです。企業の持っている「強み」には有形のものと無形のものがありますが、無形の「強み」は、下記のように分類されます。

○特許権・実用新案権、意匠権、商標権のように特許庁に出願して権利化したもの(産業財産権)や、著作・創作がなされた時点で権利が生じている著作権など、独占権となっている「強み」を「知的財産権」と呼んでいます。

○「知的財産権」に、企業が培ってきたブランドの信用や、費用をかけて開発した技術や商品デザインのうちで権利化していないものや、社外に知られたくない技術ノウハウなどの「強み」も加えたものを「知的財産」と呼んでいます。

○「知的財産」の他に、人的資産、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなどの「強み」を加えたものを「知的資産」と呼んでいます。

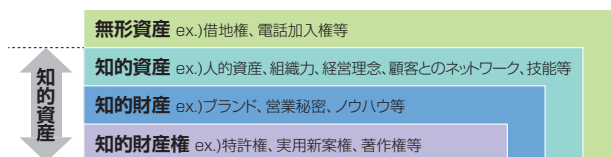


図1 ● 知的財産権、知的財産、知的資産、無形資産の分類イメージ図
出典：経済産業省HP「知的資産・知的資産経営とは」より
https://www.meti.go.jp/policy/intellectual_assets/teigi.html

これらの自社の「強み」を自覚し更に磨きながら生かしていくことで、事業を継続・発展させていくことができます。

3 中小企業の知的財産について

知的財産の保護・活用の取組みと売上高営業利益率の関係

企業努力で培ってきたブランドの信用や、費用をかけて開発した技術や商品デザイン、効率的な生産を可能とする製造ノウハウなどの「知的財産」を他社の模倣から守り、更に経営に生かしていくことが、「企業の強み」を維持させるためには大切なことになります。

ここでは一例として、「知的財産」の中で産業財産権(特許権・実用新案権、意匠権、商標権)を取得・活用している中小企業とそうでない中小企業の売上高営業利益率の比較データ(図2)を見てみます。2015年～2017年の3年の平均です。

これらのデータを見ると、特許権・実用新案権、意匠権、商標権などの産業財産権を所有し上手く活用している中小企業は、平均して産業財産権を持っていない中小企業はもちろん大企業よりも売上高営業利益率が高いことが分かります。

もちろんこのような利益率の高さは、産業財産権の所有・活用だけによるものではなく、そのような企業は先に述べた「ブランドの信用」や「技術ノウハウ」等の「知的財産」や人的資産等の強みを加えた「知的資産」についても、「強み」として守り育てる取組みをされていると推測でき、そのような取組みも利益率の高さに貢献していると思われます。

特許庁では地域の中小企業等の皆様がこのように自社の「強み」である知的財産の保護・活用によって、より強い経営を行っていただくことを支援する目的で、「知財総合支援窓口」を平成23年に各都道府県に設置しました。その後、平成26年に事業主体が特許庁から(独)工業所有権情報・研修館(略称:INPIT)に移管されたため、現在は「INPIT知財総合支援窓口」となっています。富山県窓口は(一社)富山県発明協会が運営を担っています。

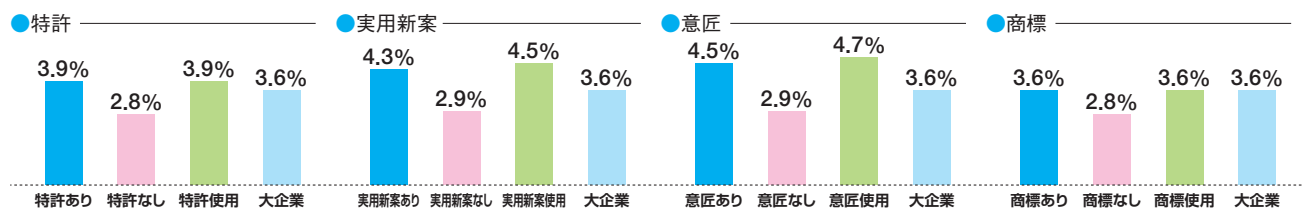


図2 ● 中小企業の売上高営業利益率(2015年～2017年の3年平均)
出典:平成30年度 中小企業等知的財産支援施策検討分析事業「中小企業の知的財産活動に関する基本調査」報告書より

4 INPIT知財総合支援窓口の特徴

POINT1:窓口の支援担当者が相談内容に応じてアドバイス!

経験豊富な企業OB等の窓口支援担当者が、まずはお話を通じて「経営」と「知的財産」の課題を把握。その上で事業・知財戦略の策定助言や、それらの戦略に合った知財活動の方向性を無料でご提案します。

POINT2:各分野の専門家が訪問や窓口で無料アドバイス!

会社の課題発見から、専門性を必要とする相談内容まで、専門家が窓口担当者と協働してアドバイスをします。

POINT3:様々な支援機関と連携して支援します!

知財総合支援窓口は、様々な支援機関と連携関係を持っています。ご相談内容に応じて、連携機関からもアドバイスも受けられるようアレンジします。富山県内では、以下①～⑧の機関と連携支援を行っています。

①(公財)富山県新世紀産業機構②富山県よろず支援拠点
③県公設試④大学・高専⑤商工会・商工会議所⑥特許庁・中部経済産業局・INPIT⑦JETRO⑧金融機関・地方自治体等

5 INPIT富山県知財総合支援窓口への相談例

ご相談いただきたい代表的なケース

○「新しく開発した技術を守りたい」「新商品のネーミングやデザインを守りたい」

その技術開発が完了する前に、その新商品のネーミングやデザインを固める前に、同じような技術、ネーミング、デザインが他者によって出願されたり権利化されたりしていないことを確認することが必要です。先に他者から出願されていると、後から出願しても権利を取得することが困難ですし、もし権利化されていると、それを商品化したときに権利侵害で訴えられるリスクが生じます。知財総合支援窓口では、特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)を使った先行調査のやり方を指導します。

○「当社技術を高く評価してくれた大企業と共同開発を行う。相手先から提示された共同開発契約書にはちょっと意味の分からないところもあるが、このままサインしても大丈夫か?」

契約書はそれを作成した側が有利になるような内容にすることが多いため、相手から提示された契約書にそのままサインす

ることは避けるべきです。当社の情報の取扱いや開発成果の取扱いなど、当社に不利な条件になっていることが考えられます。

○「自社商品を海外の展示会に出品する予定だ」

現地の人間が展示会に出展されている商品のネーミングを勝手に現地国で商標出願するケースがあります。現地ですれが商標登録されると、日本で商標が登録されていても現地国で販売しようとする商標権侵害で訴えられるリスクがあります。海外の展示会に出品する場合には、その国でも商標登録出願をしておくことをお勧めします。知財総合支援窓口では、外国出願費用の1/2を補助してくれる特許庁の中小企業等外国出願支援事業の利用方法のアドバイスもしています。

○「経営戦略を立てるのに、自社・他社の知財情報を活用したい」

自社の経営・事業戦略を定める際に、経営・事業情報に知財情報を取り込んだ分析を実施し、経営者・事業責任者と共有することを「IPランドスケープ」と呼び、最近注目をされている取り組みです。知財総合支援窓口では、中小企業の皆様が自社・他社の知財情報を取り込みながら経営戦略を立てることを支援させていただきます。

6 INPIT富山県知財総合支援窓口

富山県内の2つの窓口の場所は、次のとおりです。

■富山窓口／富山市高田527番地 情報ビル2F
TEL:076-432-1119
E-mail/toyamachizai@marble.ocn.ne.jp

■高岡窓口／高岡市二上町150番地 富山県産業技術研究開発センター 技術開発館1F TEL:0766-25-7259
E-mail/takaokachizai@friend.ocn.ne.jp

※高岡窓口には電子出願端末が配置されています。

ご相談は無料ですので、ささいなことでもお気軽にお声掛けをいただければ幸いです。高岡、富山の2か所の常設窓口のほか出張窓口相談会も開催しております。また電話、メール、web相談、訪問支援も行っております。

林原 幹雄 (はやしはら みきお)

1984年～ 電機メーカーにて移動体通信端末用無線ICや移動体通信端末無線回路の開発に従事
2014年～ (一社)富山県発明協会にて知財総合支援窓口の窓口支援担当者として入職
2015年～ (一社)発明推進協会にINPIT富山県知財総合支援窓口の窓口支援担当者として入職、現在に至る

砺波市美術館の概要

砺波市美術館は、1997年4月に「市民に開かれた美術館」「砺波地方の文化の発信点」であることを活動の基本方針に掲げ開館しました。過去に砺波市が携わった現代美術を紹介する倉庫美術館「アートスペース砺波」(1988年～1992年)や砺波市文化会館の開館を機に企画され、行政区域の枠を超え砺波市、小矢部市、南砺市で活躍する美術作家を招待した「となみ野美術展」などの活動を継承し、地方の芸術文化の今の姿を発信しています。



砺波市美術館

当館の展示室は、大規模な展覧会が可能な「企画展示室」、収集方針に基づき収蔵した美術品を展示する「常設展示室」、広く一般の方が作品発表を行える「市民ギャラリー」に加え、子供から大人まで自由に創作活動ができる「市民アトリエ」を備えています。

「企画展示室」では、年間に7回程度の企画展を催しています。春先のチューリップフェアの時期と、お客様が足を運びやすい秋には、大型の親しみやすい展覧会を開いています。他には、砺波地域で活躍する作家や、砺波市美術展などの郷土関係の展示を行なっています。「常設展示室」は、畳敷きがある和室を含め三室あり、美術館が収蔵している美術作品を年間4回程度入れ替えし紹介しています。2階の「市民ギャラリー」は、一般の方のグループ展や個展など様々な方に貸し出しを行い利用していただいています。「市民アトリエ」は、平日に当館の教育普及事業である「子どもの造形アトリエ」を実施しており、週末には、展覧会関連のワークショップや講演会の会場として使用している他、美術サークルの創作活動の場として活用されています。

美術館の収蔵作品について

砺波市美術館は、日本の生活文化を表現している工芸作品、砺波にゆかりのある郷土作家の作品、国際的評価の高い写真家の作品という三つの柱で収集方針を立て、購入や寄贈によって作品を収蔵しています。

今回は、当館が収蔵している作品から砺波にゆかりのある作家の作品を紹介します。

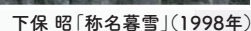
□

下保 昭(1927年～2018年)は、砺波市に生まれます。1949年に日本画家西山翠嶂の画塾・青甲社に入塾し作家活動を開始します。翌年、日展に初入選を果たし、以後日展を中心に発表します。彼は、自然がもつ圧倒的な迫力に魅了され、その雄大さを大胆な構図と筆致で描き人気を博しました。1963年に日展会員となり、67年に文部大臣賞を受賞、70年には日展評議員に就任するなど着実に実績を積み重ねていましたが、88年に日展を脱退します。この頃からさらなる表現の進化を求め模索する中で水墨を用い始めます。

「称名暮雪」(1998年)は、1997年10月に黒部川上流及び立山、劔岳に赴いた取材から制作されており、六曲一双屏風仕立の大作です。右隻には高さ500メートル、総延長2000メートルの巨大な岩壁である悪城^{あくしろ}の壁^{かべ}を、左隻には称名滝を配置していて、現実には同時に見ることの出来ない風景を描いています。墨を使い黒色の濃淡で岩肌の重厚さを描き、プラチナを多用して、初冬の薄く積もった雪を表現しています。自然の雄々しさを豪快な筆使いで画面に定着させ、鋭い視線で日没の瞬間を切り取り、創作し作品化する構成力は下保 昭の真骨頂といえます。

□

清原 啓一(1927年～2008年)は、砺波市に生まれます。1945年に富山師範学校に入学、美術教諭であった曾根末次郎に学び、同郷の洋画家川辺外治を紹介されました。卒業後は、中学校勤務の傍ら川辺のアトリエに通いデッサンの研鑽を積み公募展に出品し始めます。1950年から東京に拠点を移し、光風会、日展を中心に作品発表します。1952年に日展初入選し、画風とテーマ



清原 啓一「紫陽花遊鶏図」(2007年)

003 ご案内図



ご利用案内

※施設点検や展示入替等による休館日もあり

塗料を科学する

豊かな経験に基づくノウハウを駆使し、優れた塗料の提供・塗装環境をご提案。

弊社は、昭和35年に高岡市中川で塗料の卸販売を行う商店として創業いたしました。

当初より、工業、一般建築塗装、自動車钣金塗装など幅広い分野の塗装工場様や塗装職人様とお付き合いをいただき、複雑かつ多岐にわたる塗料について知見を積み上げてまいりました。



社屋外観

工業分野においては、高岡の伝統産業である銅器の着色に始まり、鉄や各種プラスチックなど多様な素材に対して、表面の保護、加飾、耐熱や抗菌といった様々な機能性の付加などを目的とした塗料をご提案しています。アルミ素材では、型材には電着塗料、外壁パネルなどにはフッ素樹脂焼付塗料、小部品にはアクリル樹脂焼付塗料やウレタン樹脂塗料などという具合に、製品の形状や用途、あるいは塗装環境などの条件に合わせた塗料をご提供いたします。

弊社は現在、高岡市四屋の本社敷地内に6棟の危険物倉庫と3棟の一般倉庫、また1棟の空調機能を備えた倉庫を保有し、取り扱いに注意が必要な材料である塗料を、適切に管理しています。その機能を十分に

生かし、お客様が必要な時に必要な量をお届けできるよう、きめ細やかな配送体制を取っています。

同じ敷地内に塗料の調色工場を持ち、各種焼付型塗料やウレタン樹脂塗料の調色（＝色合わせ）を行っています。これによって、無限に近いバリエーションが考えられる塗料の色について、お客様の身近で、必要な分だけを短納期でお届けすることが可能となっています。

材料としての塗料だけではなく、塗装時に必要な塗装機器や塗装設備、シンナーや各種溶剤、前処理剤といった関連商材も多数取り扱っています。あらゆる製品の仕上げとなる塗装工程において、万全のサポートができるよう備えています。

近年では、持続的な企業活動を行うために、また快適な環境で生産活動を行うために、工場の床や屋根などの改修や遮熱塗装などのご提案も行っています。塗料を販売する中で積み重ねた経験を活かし、材料のご提供にとどまらず、工事の施工まで一括して承ることで、お客様にご安心とご満足をいただいています。

塗料は、アルミ製品を始めとしてあらゆる工業製品に欠かせないものですが、一方で取り扱いや施工に経験や知識が必要な、複雑なものでもあります。

塗料のことで困りごとがあれば、お声がけをいただければ幸いです。



■ 建材・建築・自動車補修など多様な塗料があります

株式会社 大和産商

〒933-0949 富山県高岡市四屋843-1

TEL:0766-21-2200 FAX:0766-21-2480

大和 株式会社 大和産商

Factory facility 工場施設



■ 危険物倉庫外観



■ 専用車両で迅速な配送



■ コンピュータと測色計で色差管理します



■ 塗料を調色する際に使用する攪拌機



■ 塗装ブース設置工事を承ります



■ 塗装ラインで使用・レシプロ塗装機



■ 塗装ロボット



■ 屋上防水塗装を綺麗に仕上げます

〔ウェブサイト〕 <https://www.daiwasansyo.co.jp/>

新入社員研修を行いました。

今年も新入社員を対象とした研修を、ポリテクセンター富山で行いました。

■4月4日(月) マナー研修

講師のI.S.K有限会社 大友タ可里氏から「ビジネスパーソンとしての基本とマナー」と題し、社会人としての心構え、ビジネスマナーの基本やメンタルヘルス等、社会人としての自覚を学びました。12社から39名が受講しました。

■4月5日(火) 安全衛生研修

三協立山株式会社 安全衛生部 柴田隆氏 米沢吉彰氏を講師に迎え47名が受講しました。新入社員として心がけるべき安全衛生の

ルール、作業に対する心得、健康管理などを学びました。また、「危険予知訓練レポート」をグループ毎で作成・発表し、お互いに危険に対する意識づけをしました。今回の安全衛生研修で学んだことを各職場に持ち帰り、健康で

安全に仕事に取り組んでいただけたと思います。

■4月6日(水)、7日(木)

アルミ建材加工組み立て技術研修

三協立山株式会社 三協アルミ社 技術開発統括部商品管理部 部長喜多和彦氏や初期流動部初期流動課の湊川慶彦氏、宮田裕氏、他1名の講師で研修を行い22名が受講しました。サッシの一般知識、図面の見方、測定法、切削加工とサッシ組立実習を行い、アルミのものづくりの基礎を学びました。



「中堅社員ものづくりセミナー」を開催しました。

6月3日(金)、4日(土) 現場監督者及びスタッフ部門のものづくりに携わる中堅社員を対象にセミナーを開催。ものづくり能力(品質、コスト、納期)を高める考え方・手法を習得する事を目的に、M&P研究所とやまの竹村所長を講師に迎えポリテクセンター富山で行われました。受講者17名が標準作業について「ピンを挿入する作業」の実作業を通して学びました。



NEWS 03

ゴルフ大会開催

第58回会長杯親睦ゴルフコンペを開催しました。

6月11日(土)、花尾カントリークラブで2年振りに31名の自称プロ参加のもと、会長杯親睦ゴルフコンペを開催しました。当日は、天候にも恵まれ絶好のゴルフ日和の中、和気あいあいとプレーを楽しめました。

なお、今大会では株式会社三輝の杉本 一氏が、グロス74の見事なスコアで優勝の栄冠に輝きました。



優勝 杉本 一 (株)三輝

2位 米原 昭彦 サンエツ運輸(株)

3位 倉田 勝弘 三協立山(株)三協マテリアル社

4位 太田 豊作 協和紙工業(株)

5位 山崎 申之 三協立山(株)三協アルミ社



NEWS 04

6月例会開催

6月例会講演会を開催しました。

6月24日(金) 高岡商工ビル 2階大ホールにおいて48名出席のもと、6月例会を開催しました。今回の例会では、西川副会長の挨拶に続き、公立大学法人 富山県立大学学長 下山 勲様から「県大DXセンターで展開したいこと」と題し、県立大学の歴史に始まり、日本の高齢化社会の現状とIRTによる支援およびDXセンターにおける社会人教育など、約75分間に渡り、熱く講演いただきました。



NEWS 05

夏季講座実施

第52回軽金属教育夏季講座を開催しました。

7月5日(火)、6日(水)の2日間、富山県産業技術研究開発センターにおいて、第52回「軽金属教育夏季講座」を開講しました。各社の若手技術者23名が受講し、富山大学学術研究部の各先生の講義を熱心に受講していました。



<1日目> ・「アルミニウム材料学」松田教授

・「軽金属鑄造学」附田助教

・「アルミ表面処理」砂田特別研究教授

<2日目> ・「軽金属加工学(押出加工)」船塚助教

・「アルミニウム溶接学」柴柳教授

・「軽金属加工学(切削加工)」高野講師

運営委員会報告

運営委員会・理事会を開催しました。

5月10日(火)運営委員会、理事会が開催されました。2021年度事業報告並びに計算書類の報告・監査報告の審議に続き、役員の選定について審議されました。また、2022年度役員体制(案)や優良従業員表彰式のほか、軽金属教育夏季講座、例会等の事業計画(案)について報告しました。

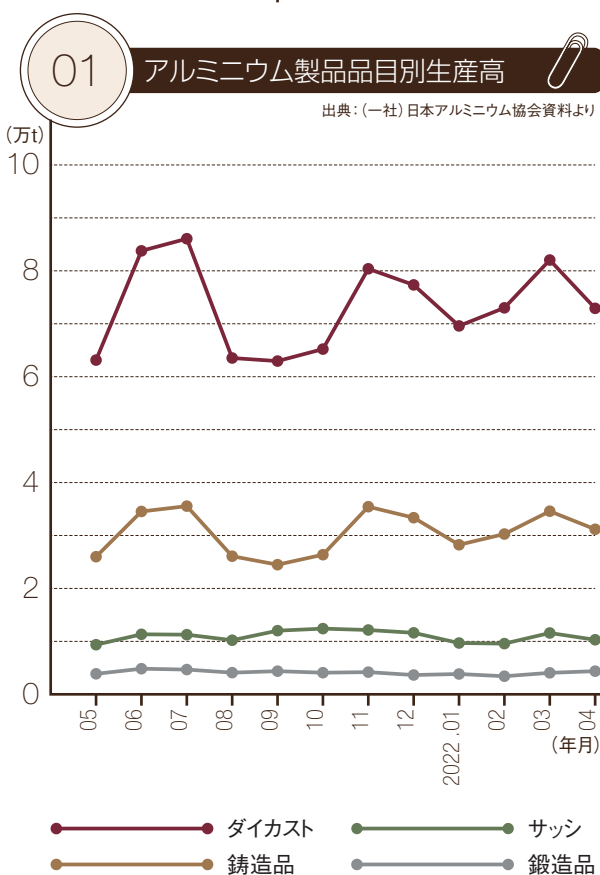
委員会報告

各委員会を開催しました。

6月29日(水)経営労務委員会、6月30日(木)総務広報委員会、7月4日(月)技能技術委員会を開催しました。2022年度所轄事業の進捗状況と県内企業視察、8月例会と暑気払い等の事業計画を報告、審議頂きました。また株式会社ジェック経営コンサルタントから、北陸地域新成長産業創出促進事業として「地域DX促進支援事業」についてご紹介がありました。

Statistics of aluminum

アルミの統計

「アルミニウム製品品目別生産高」
「住宅着工総戸数」

編集委員会

高畑敏夫、林和彦、稲垣芳則、阪口政博、竹平雄式、八田正人、堀田泰弘(2022.7.31発行)

私の歴史と。。。MY HAPPY TIME

株式会社 TAN-EI-SYA

執行役員

小杉 尚之

KOSUGI NAOYUKI



私は今年58歳になりますが、株式会社鍛栄舎（旧社名）に入社し、まずアルミホイール（鋳造製）の加工現場に配属されました。しかし、その入社日前に何もわからないまま、NC旋盤の講習会に約1週間千葉県の仕事機メーカーへ行って来いと言われ、新入社員3名で行って来た記憶があります。今になってみるとやはりある程度機械を操作したり、プログラムの言語に携わってから行くべきだったのではと後から思った苦い記憶があります。

その後、当時美術工芸品の製作も行っていたため、その現場で頑固な職人の方に教えてもらうのではなく、見よう見まねで何とかしろと言われ、学習していった記憶もあります。

数年後営業と技術が合併したような職場に行き、アルミの基礎知識や鍛造アルミホイールの製造についていろいろな方々からお教えいただき、客先に営業に伺っても図面も理解でき、アルミの基礎知識やアルミホイールの製作もある程度熟知していたため、お客様にもかわいがられ、営業活動を行っていました。

現在（TAN-EI-SYA）では、商品開発部で様々な設計や開発を行う部署と、ホイール以外の営業も兼務し、日々精進しております。

そんな私の楽しみといえば、毎晩家内と「あーだこーだ」と言い合いながら、ビール・日本酒・ワインと色々たしなみながら晩酌している時間、そして会社の仲間や協力会社の方々と、ワイワイ言いながら行っている週末のゴルフです（年数回は家内と2バックでゴルフに行ったりもします）。プレーはお世辞にも上手とは言えないのですが、見た目も大事とウエアやシューズにも凝ったりし、ファッションも楽しんでおります。

旅行も好きで、最近はコロナの影響で行き辛くなりましたが、以前は出張やプライベートで国内外と様々な箇所へ行かせてもらいました。海外は15か国くらい行きましたが、欧州ではオーストリアやスイスが特に印象に残っております。また北米も良いところが多く、最後に行った米国最南端のキーウエストは、のどかな

んですが少し南米っぽくもあり、思い出に残る場所となりました。

現在3人の孫（すべて女子）にも恵まれ、ほぼ毎週長女が嫁ぎ先から連れてきており、孫たちにかまってもらってます。

そんな私ですが、いつまでも気持ちだけは若く、今までの罪滅ぼしも含めて、今後は家内や子供達、孫達と一緒にいる時間を大切にし、健康でアクティブに過ごして行ければと思っています。





一般社団法人 富山県アルミ産業協会

〒933-0912 高岡市丸の内1番40号 高岡商エビル6F

TEL:0766-21-1388 FAX:0766-21-5970

E-mail ●toyama-al@alumi.or.jp

URL●<http://alumi.or.jp>